

令和3年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■鮎貝地区：11月30日（火）午後7時～8時45分 参加者数68名
（うち16人町職員）

白鷹町過疎地域持続的発展計画とこれからのまちづくり

《質疑応答》

- Q. ウッドショックということで、杉の木が注目されている。根拠はないが、一時の注目だけでなく、当分続きそうに感じている。鮎貝自彊会には、約2700町歩の杉の木等があり、いい感じに育っている。国から町に交付されている森林環境税を境界明確化に使ってもらっているが、東側だけでなく、これから西側、特に鮎貝地区の境界の明確化をした方が、個人の山が活かされるのではないか。
- A. （農林課長）最終的に山主に木が売却されてお金が戻るといった形になるのが一番。効率的な施業のために山を集約するのにも、境界の明確化が非常に重要になる。現在、中山でしているが、年間50ヘクタール程度しか作業が進まない。作業を加速化するために、航空レーザー測量で地形や林相を調べるなど、最新の技術を取り入れる方向で進めている。西側の明確化とあったが、考えとしては町全体で進めていけるよう、来年度の事業についてはこれから検討していきたいと思っている。
- Q. 目標の達成には時間を要するものもあるが、長いスパンで、どういう町づくりをしていくのか、よく考えながら進めていく必要がある。なかなか進まないものも根気よく進めてもらいたい。特に人口減少が著しいので、女性を含め、若い世代の考えを重点的に取り込んでいく必要があると思う。人口減少は本町に限らず県全体、国全体の問題であるため、県や他自治体との連携で進めてもらいたい。
質問としては、特に白鷹町として力を入れたいことは何か、連携という部分ではどのような状況かというところをお聞きしたい。
- A. （町長）女性の方々を含めて会議をさせていただいた時に、Uターン、Iターンあるいは大学を出られた方が、白鷹に戻っても働く場所がないと言っていた。白鷹町には、誘致という形で入っていただいた企業含め多くの企業がある。その社長さん方曰く、いくら募集しても、学校訪問をしても、入ってくれる人が少ないとおっしゃっていた。ニーズと情報が通じていないため、そのマッチングを我々でしていきたい。もう一点は、空き家の活用ができていないというところがある。改修支援に関するPRが行き届いていない。改修や解体に協力してくれる企業はあるが、空き家は個人の権利であるため、なかなか難しい部分がある。一番の課題である人口減少を解消していくために皆さんの考えを取り入れながらよく考えて調整していきたいと思ってい

る。

- Q. 山形鉄道は、県や町が出資して存続しており、直接的な利益は少ないと思うが、町民の足としてなくてはならないものだと感じる。それらを守っていただきたい。費用対効果だけにとらわれると、町での生活自体が難しくなってしまう。急に人口を増やすことは難しいと思う。1万2000人の人がいれば、その人たちがどんな思いをもって、どんな生活で満足できるかといった、年代ごとの意見を取り入れ、まずは白鷹町に住んでいる人が住んで良かったと思えるような町づくりをしていかなければならないと感じる。
- A. (企画政策課長) まずは、最初にあったフラワー長井線の部分についてだが、上下分離方式で、施設等は行政が支え、山形鉄道は経営面に専念してもらっている。コロナの影響でダメージを受け、だんだん戻ってきてはいるが、コロナ前の状況まで回復したとは言えない状況。観光事業等については全然見込めない状況。県と2市2町で協力しながら、住民の足として残していきたいと考えている。公共交通機関としては、高齢で免許を返納された方の交通手段として、循環バスやデマンドタクシーを、置賜総合病院まで延伸する実証実験も行っている。民間の方にも頑張ってもらって、行政としても支えていくという、今のシステムを継続していきたいと考えている。

その他 地区の抱えている課題や、町への要望など

《質疑応答》

- Q. 分署から、豪雨災害時の対策として砂の備蓄ができないかと言われたため、就業センター東側の駐車場に置かせてもらいたいとお願いしたが教育委員会に断られた。荒砥にはそういう場所があるが、西側にもそういった場所が必要。大型トラック2台分で5m四方ほど置くのには問題のない場所だったのに、なぜ断ったのか。
- A. (教育次長) まだ把握していないものだったため、確認して返答させていただきたい。
- Q. 三点ほど質問させていただきたい。箕和田地区にある排水機場について、役場が担当か国交省が担当かというところはあると思うが、ポンプにある程度水がたまると起動して最上川に放流する、また、最上川が増水した時には逆に動かさないという話を聞いたが、これについて詳しく聞きたい。停電時は動かせるのか。最上川の水位が上がった場合は排水できるのか。気候変動によって、集中豪雨が増えてきている。あと2基くらい増設できないか。
- 二点目は、八幡川のさくらの保育園の下側に、約1メートルの砂が堆積している。早急に上げてもらいたい。
- 三点目は、源八沢は、一旦洪水になるとダムのようにになってしまう。昨年7月28日の水害時は、常安寺までの町道に土管が崩落して通行止めになってしまった。できれ

ば、松岡輪店さんの向かいの小口敏弘さん宅の方を30センチくらいコンクリートでかさ上げしていただきたい。

追加で、まちづくり推進交付金を3年間で182万円いただいております、ハード面・ソフト面に使わせてもらったが、もう少し増額をお願いしたい。

- A. (農林課長) 排水機場は、県営土地改良事業で実装されたもので、農業用の施設になる。直径1mのポンプと、1.35mのポンプが1つずつあり、能力としては、1つは132m³/分、もう1つは227m³/分を排出できるものになる。同時に動かすと359m³となり、イメージ的には、6コースの25mプールの水量を、約1分間で排出できるくらいのもと考えていただければと思う。水がまったく溜まらないようにする施設ではなく、ある程度は溜まっている。溜まった水は24時間以内には最上川に排出できるという設計になっている。主に周辺は水田になっているので、1日から2日ぐらいならほぼ被害がなく対応できる。重油燃料のディーゼルエンジンポンプで、基本的に動かすときに電気は必要だが、自家発電の装置もあるため、停電時も問題ない。タンクを満タンにすると連続で1日半〜2日程度は動く。最上川の水位が高くなった場合、箕和田地内の水田の方に逆流するので、それを防ぐために水を吐き出す。水位がかなり高くなってしまった場合、吐き出せなくなるので水門を閉鎖し、最上川の水位が下がってから、一旦溜まった水を吐き出すという仕組みになっている。総事業費は7億8600万円で、5年かけて整備した施設である。

- Q. 最上川の水位がかなり高くなり、水圧がかかりすぎるとポンプでも吐き出せないという解釈でよいか。

- A. (農林課長) その通りだが、今までそのような状況になったことはない。

- A. (町長) 排水機場だけでは間に合わない事態になってしまった場合には、国交省や農水省に排水ポンプ車の出動依頼をすることになっているので、一報いただきたい。国交省や農水省でもかなりの台数を準備しているが、間に合わない事態が発生する可能性もあるので、早目早目に依頼をする。

南陽市や高島町のように、平成25.26年、令和2年の豪雨被害を受け、排水ポンプ車を自治体で導入しているところもある。

- A. (建設課長) 八幡川については県で管理している河川になる。西置賜河川砂防課によると、流下量としては十分であるとのこと。集中豪雨や気象の変動によっては、堆積量が増加する可能性も考えられる。その際は、状況を見極めながら対応を図っていきたいとのことだった。町に連絡していただければ、県につないで対応いただくのでよろしく願いしたい。

三点目については、丸吉さんと小口さんの敷地の間に川が流れている現場であり、狭いため工事用の車両が入れなくなっており、なかなか手が付けられなかった。我々としては、今後こういった方法で工事ができるのか、どうすれば水害のリスクを下げる

ことができるのか、これから研究、検討していきたいと思っている。

- A. (企画政策課長) まちづくり推進交付金については、各地区から使い勝手がいいという事で、もう少し増やせないかというご要望をいただいている。ハード事業、ソフト事業の両方に使えるが、ハード事業に使ってしまうとなかなかソフトに回せないという話も聞いている。これから予算要求の時期になるが、いくつかテーマを決めて、その部分についてかさ上げをするようなことができないかという検討もしているが、従来からあるまちづくり交付金もソフト事業に活用できるので、使い方の工夫も各地区で検討していただきたいと思う。

- Q. おかげさまで3軒新しく家ができたが、1軒減ってしまった。その方は昨年組長だったのだが、中学校の後援会費について一軒一軒頭を下げて集金するのが嫌だったらしい。いつから組長が集めることになったのか、昔は保護者が一軒一軒頭を下げて集めていた。なぜ中学校のために頭を下げなければならないのかという不満があったらしい。その辺をもう少し考えてほしい。

もう一つは、15日の配布日について、土日が入ると月曜日に配布となるわけだが、組長が仕事をしている人だと一週間遅れての土日の配布になってしまう。その辺を前倒しの金曜日にはできないか。

- A. (町長) 学校後援会費等については、税外負担になるため、これ以上は踏み込めない。学校だけでなく、区の会計など様々なものに関わってきてしまう。地域の相互扶助の問題にもなってくる。地域の中で話し合っていただきたいと思う。

文書配布についても、今まで月2回あった。それを1回にまとめてほしいということでまとめたが、かなり多いところもある。どうしても、それぞれの都合というところはこちらで把握しきれていない。それぞれの区の都合は区で何とかしていただきたい。お互いの協力の下で成り立っているものなので、その辺は理解していただくしかないと思っている。

- A. (総務課長) なぜ月曜日にお渡ししているかという、金曜日にお渡しして、配布数の不足があった場合、土日は対応できないためである。期限が短いものは入れないようにしているのに加え、個人情報を含むものについては、郵送で対応しているので、ご理解をいただきたいと思う。

- Q. 15日が金曜日の場合、14日の木曜日に前倒しというのは可能ということか。

- A. (総務課長) 町内長の方に、事前にその年の文書配布日をお伝えし、それに合わせて町報も作っている。できるだけ金曜日、月曜日にならないよう配布していきたいと思うが、ご理解いただければと思う。

- Q. 四季の郷に若い人が増え、活気づいているが、ヤハハエロができない。軒数が増え、

ヤハハエロをする場所がなくなった。発展していくのはいいことだが、逆に子供たちと一緒に活動する昔からの伝統的なものがなくなってしまったことが残念である。そういうところにも目配りをしてもらいたい。

- A. (町長) 例えば、サイズを小さくするなど、大きい小さいは別として、地域で知恵を振り絞って、伝統行事を継続していくことが重要かと思う。
- Q. 神明町で工事中の防火水槽について、何かあった場合は飲料水にもできるとお聞きしたが、そこら辺のご説明をお願いしたい。
- A. (総務課長) 間もなく完成予定の耐震性の貯水槽で、万が一水道が止まってもその水が使用できるということにはなっているが、白鷹町の水道は大丈夫だと思うので、そういうことにはなかなかならないかと思っている。無蓋の防火水槽が残っているので、消火栓にするか、貯水槽にするか、検討させていただきたいと考えている。
- Q. 私立高校はスクールバスを出しているが、荒砥高校も活性化のためにスクールバスを出せないか。
- A. (教育次長) 令和2年度から40人1学級の小規模校となっており、令和3年度の入学者は27人である。令和5年度以降、2年連続で入学者が20人を下回ってしまうと、県教育委員会と町で検討が必要になり、存続が厳しい状況になる。その中で、入学者を増やすために、荒砥高校魅力化計画ということで、様々な施策を行っている。来年度から入学者を確保していこうとする中で、現在小中学校のスクールバスに、希望があれば荒砥高校の生徒も乗れるようにするという施策も考えている。その他にも、修学旅行の補助や、卒業時の運転免許証取得の際の支援など考えているところである。存続に向けて協力してもらいたい。
- Q. フラワー長井線の活性化ということで、鮎貝りんごのキャラクターののぼりを復活させて、白鷹山の漫画キャラ的なものののぼりも立てれば、活性化につながると思う。
- A. (町長) 年6場所の相撲の時期にしかできないかと思うが、何らかの形で作らせていただきたい。鮎貝りんごについても私たちが守っていかなければならないと思っている。前向きに相談したいので、その際にご協力をお願いしたい。